

子どもの頃の夢

「子どもの頃に南極を舞台にした映画を見て以来、ずっと南極に行くという夢を持ち続けていました」と話す酒井さん。

『教員南極派遣プログラム』に選出された酒井さんは、平成22年11月に日本をたち、第52次南極地域観測隊に同行。南極では、衛星回線を利用して、国内の小・中学生などに『南極授業』を行ったほか、設営の手伝い、南極での研究を担当している隊員の取材などを行いました。

南極で最も印象に残っていることについて、南極大陸でトレッキングしたことと言う酒井さん。四方が見渡す限り岩場で、植物もほとんど生えていない中で、生命を感じさせない環境を歩くのは不思議な感じがしたそうです。

「実際には南極には多くの生命がいます。南極は紫外線が強く岩場の表面では植物が育ちにくいのですが、光を通す白っぽい石の裏には藻類などが生息しているそうです。過酷な環境でも生きる生命のたくましさを感じましたね」。

南極に行く前、どことなく南極を遠い存在に感じていた酒井さんですが、藻類のような日本にもい



▲市が実施する国際理解講座で南極での体験について講演する酒井さん（左）

る生物が南極という環境でも生きていることを知り、初めて同じ地球の一部であることを実感したそうです。酒井さんは、「実際にチャレンジして見て体感しないとわからないこともあるということですね」と話してくれました。

夢を叶えるために

子どもの頃の夢を叶えた酒井さんは、子どもたちに夢を持つことの大切さを伝えていきたいと話します。

「夢はどこでどのように叶うかわかりません。だからこそ夢を叶えるためには、多くの夢を持つことが大切です。子どもたちには、さまざまなことに興味を持ち、夢を抱き、チャレンジして、充実した人生を送ってほしいと思います」。

酒井さんは、今日も子どもたちに夢を持つことの大切さを伝えています。



KIRARI

さか い せい じ
酒井誠至さん（片倉町）

国立極地研究所と日本極地研究振興会が行う『教員南極派遣プログラム』は、衛星回線を利用して行う『南極授業』を行うほか、派遣教員の知識の習得や自己研さんをしてもらうため、平成21年度から実施しています。この派遣プログラムに参加し、現在、北海道登別明日中等教育学校で教師を務めている方がいます。

同校で理科の教師をしている酒井さんは、平成22年度に派遣プログラムに選出され、第52次日本南極地域観測隊夏隊に同行。さまざまな体験をしてきました。帰国後は、南極での体験を生かし、市の『国際理解講座』や道内の学校での講演などを十数回実施してきたほか、南極での経験を交え生徒を引き付ける授業を行っています。

今回は、南極での経験や酒井さんが子どもたちに伝えていきたいことについて伺いました。

夢を叶えるために色々なことに興味を持ってほしい

昭和44年、東京都世田谷区生まれ。47歳。

東京水産大学大学院を卒業後、平成7年に浦幌高校に着任し、平成20年に北海道登別明日中等教育学校へ転勤。理科の教師として教壇に立つほか、同校の演劇部の顧問として、3月に実施予定の『あけびアートフェスタ』（年に1度の文化系部活動の発表会）の準備など部活動にも尽力している。